

Ⅲ 情報学部

1. 志望方法

学科	志望方法
情報学科	

2. 選抜方法

大学入学共通テストを免除し、日本学生支援機構が行う「2022年度(令和4年度)日本留学試験」並びに群馬大学で実施する試験及び成績証明書を総合して判定します。

なお、課せられた試験等を全て受験しなければ、失格となります。

(1) 教科・科目等

教科・科目等		配点	出題意図
数学	「数Ⅰ，数Ⅱ，数A，数B」又は「数Ⅰ，数Ⅱ，数Ⅲ，数A，数B」から1	200	数学的な知識、能力（計算力、数理的思考力）が備わっているか判断します。
英語	コミュニケーション英語基礎、コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ	200	英語のコミュニケーション能力、表現力を含む多角的な能力を把握します。
面接 (個人面接／10分／面接員複数)		※	人間や社会と情報との関わりや情報を扱う先端科学技術について学び、社会に貢献する人材としてふさわしい人格と適性を評価します。

(注) 面接(※)印は、総合判定の資料とします。なお、面接時間は状況に応じて変わる場合があります。

(2) 入試日時

時間 月 日	9:00		11:30		13:00		15:00	
	9:30				12:40		15:20	
2月25日(土)	諸注意	数学			諸注意	英語		面接

(注) 1 受験者の入講開始時刻は8時です。諸注意等があるので試験開始30分前までには、定められた試験室に入室してください。

2 遅刻した者は、試験開始後30分までは受験を認めません。ただし、試験時間は延長しません。

3 面接の順番により、終了時刻が異なります。

(3) 試験場

試験場	所在地	試験場までの交通について
群馬大学情報学部	前橋市荒牧町4-2	57ページ「4. 試験場までの交通について」参照

3. 注意事項

(1) 試験室は掲示(図示)によって案内し、試験室の下見は認めません。

(2) 受験者は昼食を持参してください。

(3) 試験当日における付添者の試験場への入構は、遠慮願います。

(4) 群馬大学では、受験の際の宿泊施設等の斡旋は行いません。

4. 試験場までの交通について

荒牧試験場（群馬大学荒牧キャンパス）

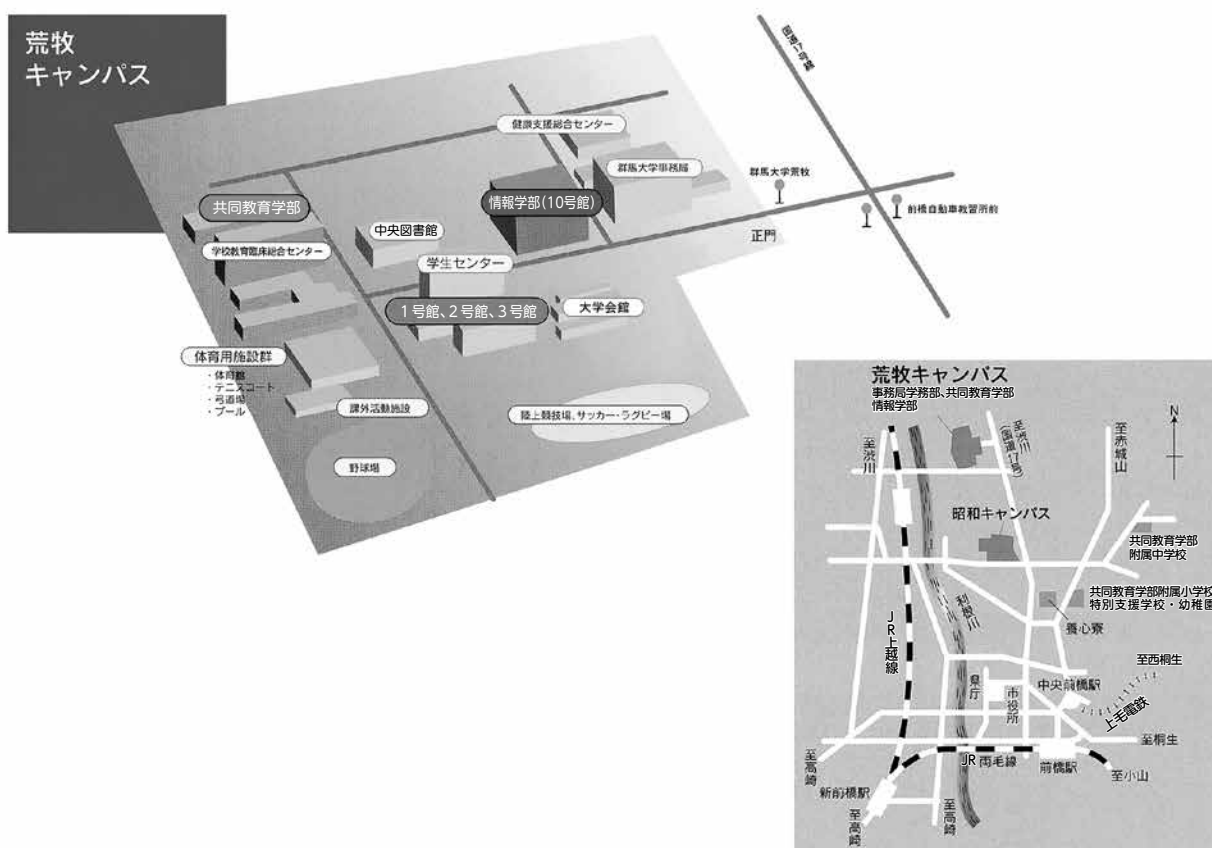
乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
J R 両毛線 前橋駅北口 2番乗り場	<ul style="list-style-type: none"> 群馬大学荒牧行 群馬大学荒牧經由渋川駅行 群馬大学荒牧經由渋川市内循環渋川駅行 群馬大学荒牧經由小児医療センター行 	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	<ul style="list-style-type: none"> 渋川駅行 渋川市内循環渋川駅行 小児医療センター行 	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	
J R 上越線 渋川駅前	<ul style="list-style-type: none"> 群馬大学荒牧經由前橋駅行 渋川市内循環群馬大学荒牧經由前橋駅行 	群馬大学荒牧	約28分	関越交通バス
	<ul style="list-style-type: none"> 前橋駅行 渋川市内循環前橋駅行 	前橋自動車教習所前	約25分徒歩10分	

※試験場への自動車・オートバイ等の乗入れは、禁止します。

※JR群馬総社駅及びJR新前橋駅からは、荒牧キャンパスを経由するバスはありませんので、注意してください。

※公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時刻までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。

試 験 場



5. プログラムについて

情報学部情報学科では、人文情報プログラム、社会共創プログラム、データサイエンスプログラム、計算機科学プログラムからなるプログラム制を採用しています。各学生は、それぞれの希望に応じて、2年次から配属するプログラムを選択することができます。

なお、各プログラムの特徴は以下のとおりです。

(人文情報プログラム)

人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力を修得し、課題解決のための実践的理念を提供できる能力を養成します。

(社会共創プログラム)

高度情報化によるシステム(制度)の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見し、社会的課題の解決および社会目標の達成のためのシステム(制度)の構築や方策を提案できる能力を養成します。

(データサイエンスプログラム)

社会全体から集められるビッグデータを、情報システムを利用して収集する方法を設計し、集まったデータから、目的とする価値に適合した解決策を導く能力を養成します。

(計算機科学プログラム)

計算機や情報ネットワークをその数理的原理から理解することで、進歩の速い情報技術をフォローアップできる能力を持ち、人工知能や各種情報システムを研究開発できる能力を養成します。